第33回レーザセンシングシンポジウム開催趣意書

実行委員長　首都大学東京大学院　システムデザイン研究科　阿保　真

レーザセンシングシンポジウムは、1972年に開催された第1回レーザレーダシンポジウムから始まり、第12回からは現在の名称に変更され、今日に至っています。本シンポジウムは国内最大のレーザレーダ（ライダー）に関する学術会議であり、ライダーを代表とする様々なレーザセンシングに関わる全国の研究者や技術者の発表と情報交換の場として機能しています。

レーザレーダ研究会は、第1回レーザレーダシンポジウム開催の際に、日本のライダー研究の先駆者である稲場文男 東北大学教授を会長として組織され、シンポジウムの開催、レーザセンシング技術の向上と普及に関する活動をすすめてきました。また、レーザレーダ研究会は、日本で開催された過去３回（第6、17、23 回）の国際レーザレーダ会議（ILRC）現地実行委員会を構成するなど、国際的な活動にも大いに貢献してきました。

レーザレーダ研究会主催のレーザセンシングシンポジウムは今年で33回目となります。シンポジウムでは、ライダー、レーザ、レーザ分光、レーザ計測など、幅広いレーザセンシング技術の開発と応用・利用に関する学術成果や、今後の研究についての提案・展望などが幅広く発表されます。ちなみに、前回は平成26年9月4日～5日に飛騨高山で開催され、94名が参加し、58件の発表がなされました。

今回のシンポジウムは、初めての試みとして都内での開催となります。会場の太田区産業プラザPIOは京急蒲田駅からすぐの場所で羽田空港や新幹線品川駅からの交通の便も良く、また東京都太田区は「モノづくりのまち」でもあります。また、開催時間を拡大し、口頭発表の時間を増やす、ポスターのショートプレゼンテーションセッションを設定するなど議論活性化のための工夫や、協賛企業との交流を図る新たな工夫を考えております。更に「レーザセンシングの実用化」に関する特別セッションも企画しております。

第１回レーザレーダシンポジウムが開催された1970年代初頭は、レーザ技術や周辺の電子・光学・計算機技術が現在に比べればまだまだ未熟で、「レーザレーダ」を装置として実現すること自体が大仕事という時代でした。それから40年、今ではレーザレーダを搭載した衛星が宇宙を飛び、身近では気付かないようなところにもレーザセンシング技術が使われています。今後レーザレーダを初めとしたレーザセンシング技術はますます広く利用されていくことでしょう。

本シンポジウムは、レーザセンシングの装置開発、計測・計装技術、データ解析、運用技術など、様々な技術分野の専門家に加え、大気・海洋・気象・環境科学関係の研究者が集い、情報交換を行う場として、重要な役割を担っています。関係各位のご参加を心よりお待ち申し上げます。

第33回レーザセンシングシンポジウム

主催：レーザレーダ研究会

第33回シンポジウム実行委員会

実行委員長：首都大学東京大学院システムデザイン研究科　阿保　真

実行委員　：同上　柴田泰邦

開催日程・会場

日程：平成27年9月10日（木）～ 11日（金）

会場：太田区産業プラザPIO　コンベンションホール

〒144-0035　東京都大田区南蒲田1-20-20

TEL: 03-3733-6600

発表形式

口頭発表：発表時間 12分、質疑応答 3分（予定）

ポスター発表：発表時間80 分（ポスターサイズ：横90cm×縦120cm）

１分間のショートプレゼンテーション有り

協賛・後援団体（一部予定を含む）

応用物理学会、環境科学会、計測自動制御学会、大気環境学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、電気学会、電子情報通信学会、日本気象学会、日本光学会、日本天文学会、日本分光学会、日本リモートセンシング学会、レーザー学会、日本測地学会

参加費

参加費：一般 5,000円，学生2,000円

懇親会費：3,000円

＊参加費には講演要旨集代が含まれています。

受付期間

発表及び講演者参加申込受付：平成27年4月1 日～ 7月16日

一般参加申込受付期間　　：平成27年4月1 日～ 8月18日

原稿提出受付期間　　：平成27年4月1 日～ 8 月 3日

ホームページ

http://www-lidar.nies.go.jp/lss33/